

三句を選んでください。

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
乳母が里草餅色に霞みけり	ピンポンの球の軽さや春の風	浦島が腰蓑軽う東風渡る	春の日をとろりと鹿の瞳かな	永き日や網長々と舟を曳く	地震から冴返る夜となりにけり	春寒や俵に猫のうす眠り	近江見て京見て山の日永かな	摘みためてエプロン染めし苺哉	かくれ咲く山吹床し興福寺	飯蛸やたゞ一口の舌鼓	入船にそゝろ春めく港かな	拳にまけて子に食はれけり桜餅	雨後の土黒きにちるや梨の花	春場所や非番の行司着膨れて	葉柳や河岸を往来のハアモニカ	かけ橋を覗けば残る桜かな	浦島のホームシツクを汐干哉	大風や入らんずる日を真向に	猫に恋させて鼠の嫁入哉	池の蛙大の字形に浮びけり	蜂一つ又下り立つよ絵具皿	春の旅君の絵葉書届きけり	洗はれて馬眠げなり春の水	夕霞君か越ゆべき海静	ちよと摘んで帽に参らす董かな	人よりは柳動きし写真哉	菜の花に紛れぬ蝶の白さかな	一二輪梅封したり妹が文	初芝居楽屋草履も新しう	紫に野川も染みて初日出	初日出海一杯の御旗哉

67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
一しきり汽車止まる間の蛙哉	いざこゝで素顔拝まん夏の富士	睡蓮の浮葉をわたる小蛇哉	クレヨンの色や陽を呑む夏の海	なまじいに鼻高うして日焦けたり	菲々として穂麦に温くし昼の雨	唐茄子の器量を笑ふ西瓜哉	轉寝や子の裾にそと夏蒲団	帯解けばハタと落ちたる扇哉	蛇の背に黄金の光る夕日哉	風鈴へ来て碎けりシヤボン玉	新入の披露や塾の柏もち	雨の香や木の香や縁の夕涼し	露わけて毬の行方を尋ねけり	涼しきやちよろ／＼水に星の影	蝙蝠やオペラに急ぐ女連	ながき日の油断を刻む時計かな	握飯蟹に振舞ふ汐干かな	春雨や居るかといへば居るといふ	山はへの字蔵はのゝ字／＼哉	籠に入れて飼へるものなら啼田螺	挨拶に何と云はうぞ初桜	棹ついで船頭やをらまかりけり	行春や雨に破れたる貸家札	桃の村何処かで牛の声もする	桃の花人形の肩にこぼれけり	逢はぬ恋柳ちぎつて戻りけり	出るや穴青大将と名のりつゝ	子鴉の大きな口に朝日かな	鬼の棲む島もあらうに帰る雁	絵はがきもなき里にして駒鳥の鳴く	茶を利くやじつと障子の棧を見て	船に寝て底打つ春の水を聞く	相呼んで子等が渉るよ春の川	陽炎やまはらぬ舌に鳩を呼ぶ

